

大学番号 私立5

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

認可

北翔大学大学院 生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻 博士後期課程

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人北翔大学

令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	総務部総務課
職名・氏名	ソウムカチョウ オガワ ミカ 総務課長 小川 美夏
電話番号	011-386-8011
（夜間）	011-386-8211
e-mail	soumu@hokusho-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

生涯スポーツ学研究科

＜生涯スポーツ学専攻 博士後期課程＞

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	8
4. 既設大学等の状況	9
5. 教員組織の状況	10
6. 附帯事項等に対する履行状況等	14
7. その他全般的事項	15
8. 添付書類	「北翔大学 FD規程」
	資料1 開設記念パンフレット
	資料2 新聞広告
	資料3 大学院パンフレット
	資料4 大学ホームページ
	資料5 大学院学生便覧

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人北翔大学

(2) 大 学 名

北翔大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒069-8511
北海道江別市文京台23番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(アオキ ジロウ) 青木 次郎 (平成29年6月1日)		
学 長	(ヤマヤ ケイザブロウ) 山谷 敬三郎 (平成30年2月11日)		
研究科長	(カワニシ マサシ) 川西 正志 (令和3年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 (博士後期課程) 博士(スポーツ科学)	体育関係	3	3人	年次人	9人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和3年度										平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	3 (—) [—]	人	人	人	人	人	人	人	人	人	1.00倍	－ 倍	
志願者数	4 (—) [—]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
受験者数	4 (—) [—]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
合格者数	3 (—) [—]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
B 入学者数	3 (—) [—]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	1.00												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和3年度										備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	3 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
							[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	3 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	3 人	0 人	令和3年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜生涯スポーツ学専攻科生涯スポーツ学専攻（D）＞

（1）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	Sports Academic English	1前	2								1	
	小計(1科目)	－	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
専 門 科 目	ス ポ ー ツ 科 学 研 究 分 野	スポーツ医科学特殊研究	1前		2		1					
		スポーツ生理学特殊研究	1前		2		1					
		スポーツバイオメカニクス特殊研究	1前		2		1					
		アスレティックリハビリテーション特殊研究	1前		2				1			
		スポーツ栄養学特殊研究	1後		2				1			
		スポーツ心理学特殊研究	1前		2				1			
	小計(6科目)		－	0	12	0	3	0	3	0	0	0
	生 涯 ス ポ ー ツ 学 研 究 分 野	生涯スポーツ学特殊研究	1前		2		1					
		スポーツ老年学特殊研究	1前		2		1					
		休養・睡眠学特殊研究	1前		2		1					
		健康運動科学特殊研究	1前		2				1			
		アクアフィットネス特殊研究	1前		2			1				
		冬季スポーツ指導特殊研究	1前		2		1					
	小計(6科目)		－	0	12	0	4	1	1	0	0	0
研 究 指 導	特別研究指導Ⅰ	1通	4			7		1				
	特別研究指導Ⅱ	2通	4			7		1				
	特別研究指導Ⅲ	3通	4			7		1				
	小計(3科目)	－	12	0	0	7	0	1	0	0	0	
合計(16科目)		－	14	24	0	7	1	4	0	0	1	
卒業要件及び履修方法												
必修科目4科目14単位、選択科目から1科目2単位以上、 合計16単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。												

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	記 号 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	Sports Academic English	1前	2								1	
	小計(1科目)		2	0	0	0	0	0	0	0	1	
専 門 科 目	スポーツ 科学 研究 分野	スポーツ医科学特殊研究	1前		2		1					
		スポーツ生理学特殊研究	1前		2		1					
		スポーツバイオメカニクス特殊研究	1前		2		1					
		アスレティックリハビリテーション特殊研究	1前		2				1			
		スポーツ栄養学特殊研究	1後		2				1			
		スポーツ心理学特殊研究	1前		2				1			
	小計(6科目)		－	0	12	0	3	0	3	0	0	0
	生涯 スポ ーツ 学 研究 分野	生涯スポーツ学特殊研究	1前		2		1					
		スポーツ老年学特殊研究	1前		2		1					
		休養・睡眠学特殊研究	1前		2		1					
		健康運動科学特殊研究	1前		2				1			
		アクアフィットネス特殊研究	1前		2			1				
		冬季スポーツ指導特殊研究	1前		2		1					
	小計(6科目)		－	0	12	0	4	1	1	0	0	0
研究 指導	特別研究指導Ⅰ	1通	4			7		1				
	特別研究指導Ⅱ	2通	4			7		1				
	特別研究指導Ⅲ	3通	4			7		1				
	小計(3科目)	－	12	0	0	7	0	1	0	0	0	
合計(16科目)		－	14	24	0	7	1	4	0	0	1	
卒業要件及び履修方法												
必修科目4科目14単位、選択科目から1科目2単位以上、 合計16単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	12 科目	0 科目	16 科目	4 科目 [0]	12 科目 [0]	0 科目 [0]	16 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目 「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{16} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		北翔大学短期大学部 (必要面積 3,800㎡)と共用		
	校 舎 敷 地	2,375.00 ㎡	79,968.00 ㎡	0 ㎡	82,343.00 ㎡				
	運動場用地	0 ㎡	41,311.00 ㎡	0 ㎡	41,311.00 ㎡				
	小 計	2,375.00 ㎡	121,279.00 ㎡	0 ㎡	123,654.00 ㎡				
	そ の 他	0 ㎡	2,349.59 ㎡	0 ㎡	2,349.59 ㎡				
	合 計	2,375.00 ㎡	123,628.59 ㎡	0 ㎡	126,003.59 ㎡				
(2)校舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		北翔大学短期大学部 (必要面積 4,087.50㎡)と 共用 教員研究室移動に伴う 専用共用変更のため (R3)		
		33,717.73 ㎡ 33,958.51 ㎡	18,104.08 ㎡ 17,914.83 ㎡	4,506.08 ㎡ 4,454.55 ㎡	56,327.89 ㎡				
		-(33,717.73 ㎡) (33,958.51 ㎡)	-(18,104.08 ㎡) (17,914.83 ㎡)	-(4,506.08 ㎡) (4,454.55 ㎡)	(56,327.89 ㎡)				
(3)教室等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		33室	46室	131室	7室 (補助職員 0 人)	3室 (補助職員 0 人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		生涯スポーツ学専攻科生涯スポーツ学専攻博士後期課程			12 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での 共用分を含む 図書の購入及び雑誌の 購読中止のため (R3)	
			種 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	生涯スポーツ学専攻科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程	216,207 [18,352] 221,021 [18,413] -(216,207 [18,352]) (221,021 [18,413])	9,311 [5,277] 9,218 [5,211] -(9,311 [5,277]) (9,218 [5,211])	6,456 [5,026] 6,492 [4,968] -(6,456 [5,026]) (6,492 [4,968])	10,791 11,007 -(10,791) (11,007)	484 486 -(484) (486)	— (—)		
計	216,207 [18,352] 221,021 [18,413] -(216,207 [18,352]) (221,021 [18,413])	9,311 [5,277] 9,218 [5,211] -(9,311 [5,277]) (9,218 [5,211])	6,456 [5,026] 6,492 [4,968] -(6,456 [5,026]) (6,492 [4,968])	10,791 11,007 -(10,791) (11,007)	484 486 -(484) (486)	— (—)			
(6)図書館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体 図書館書庫の移動に伴う 専用共用変更のため (R3)	
	2,319.33 ㎡ 2,300.2 ㎡		298		185,000				
(7)体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	2,214.00 ㎡		陸上競技場1面、野球場1面		テニスコート5面、25Mプール				
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員1人当り研究費等、共同研究費等は研究科単位での算出不能なため、学部との合計
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	6,406千円	8,390千円	6,406千円	
		共 同 研 究 費 等	8,500千円	8,500千円	設備購入費	13,257千円	4,070千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		図書購入費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費(運用コストを含む)
		820千円	620千円	620千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	北 翔 大 学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
生涯学習システム学部	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度	年度	
芸術メディア学科	4	－	－	－	学士 (生涯学習学)	－	－		平成12	同上	平成26年度より 学生募集停止
生涯スポーツ学部						1.14	1.15				
スポーツ教育学科	4	160	3年次 10	660	学士 (スポーツ教育学)	1.34	1.38		平成21	同上	
健康福祉学科	4	60	3年次 5	250	学士 (健康福祉学) 学士 (介護福祉学)	0.62	0.53		平成26	同上	
教育文化学部						1.06	1.10				
教育学科	4	120	3年次 10	500	学士 (教育学)	1.18	1.23		平成26	同上	
芸術学科	4	50	3年次 10	210	学士 (芸術学)	0.77	0.85		平成26	同上	
心理カウンセリング学科	4	50	3年次 5	210	学士 (心理カウンセリング学)	1.07	1.08		平成26	同上	
人間福祉学研究科						0.43	0.50				
人間福祉学専攻 (修士課程)	2	4	－	8	修士 (人間福祉学)	0.18	0.00		平成13年	同上	
臨床心理学専攻 (修士課程)	2	4	－	8	修士 (臨床心理学)	0.68	1.00		平成15年	同上	
生涯学習学研究科											
生涯学習学専攻 (修士課程)	2	6	－	12	修士 (生涯学習学)	0.74	1.83		平成16年	同上	
生涯スポーツ学研究科											
生涯スポーツ学専攻 (修士課程)	2	6	－	12	修士 (スポーツ科学)	0.99	0.66		平成25年	同上	
大 学 の 名 称	北翔大学短期大学部						学生募集停止学科数		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数		備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
ライフデザイン学科	2	50	－	100	短期大学士 (ライフデザイン学)	0.46	0.42	－	平成15	北海道江別市 文京台23番地	
こども学科	2	140	－	280	短期大学士 (こども学)	0.72	0.76	－	平成17		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻（博士課程）＞

（１）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	川 西 正 志 (68) ＜令和３年４月＞ 体育学修士
		生涯スポーツ学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	沖 田 孝一 (58) ＜令和３年４月＞ 博士（医学）
		スポーツ医科学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	竹 田 唯史 (55) ＜令和３年４月＞ 博士（教育学）
		冬季スポーツ指導特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	井出 幸二郎 (51) ＜令和３年４月＞ 博士(Zoophysiology and Biological Theory of Sports) (デパート)
		スポーツ生理学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	小坂井（シェイクスピア）留美 (49) ＜令和３年４月＞ 博士（医学）
		スポーツ老年学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	准教授	花 井 篤子 (48) ＜令和３年４月＞ 博士（体育科学）
		アクアフィットネス特殊研究
専	教授	小 田 史郎 (47) ＜令和３年４月＞ 博士（教育学）
		休養・睡眠学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	山 本 敬三 (46) ＜令和３年４月＞ 博士（工学）
		スポーツバイオメカニクス特殊 研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	講師	吉 田 昌弘 (40) ＜令和３年４月＞ 博士（理学療法士）
		アスレティックリハビリテー ション特殊研究
専	講師	黒 田 裕太 (38) ＜令和３年４月＞ 博士（教育学）
		スポーツ栄養学特殊研究
専	講師	高 田 真吾 (35) ＜令和３年４月＞ 博士（医学）
		健康運動科学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	講師	畠 中 智志 (34) ＜令和３年４月＞ 博士（体育学）
		スポーツ心理学特殊研究
兼任	講師	Christopher Blaine Simons (59) ＜令和３年４月＞ 学士(Bachelor of Arts) (米国)
		Sports Academic English

【令和３年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	川 西 正 志 (68) ＜令和３年４月＞ 体育学修士
		生涯スポーツ学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	沖 田 孝一 (58) ＜令和３年４月＞ 博士（医学）
		スポーツ医科学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	竹 田 唯史 (55) ＜令和３年４月＞ 博士（教育学）
		冬季スポーツ指導特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	井出 幸二郎 (51) ＜令和３年４月＞ 博士(Zoophysiology and Biological Theory of Sports) (デパート)
		スポーツ生理学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	小坂井（シェイクスピア）留美 (49) ＜令和３年４月＞ 博士（医学）
		スポーツ老年学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	准教授	花 井 篤子 (48) ＜令和３年４月＞ 博士（体育科学）
		アクアフィットネス特殊研究
専	教授	小 田 史郎 (47) ＜令和３年４月＞ 博士（教育学）
		休養・睡眠学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	教授	山 本 敬三 (46) ＜令和３年４月＞ 博士（工学）
		スポーツバイオメカニクス特殊 研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	講師	吉 田 昌弘 (40) ＜令和３年４月＞ 博士（理学療法士）
		アスレティックリハビリテー ション特殊研究
専	講師	黒 田 裕太 (38) ＜令和３年４月＞ 博士（教育学）
		スポーツ栄養学特殊研究
専	講師	高 田 真吾 (35) ＜令和３年４月＞ 博士（医学）
		健康運動科学特殊研究 特別研究指導Ⅰ 特別研究指導Ⅱ 特別研究指導Ⅲ
専	講師	畠 中 智志 (34) ＜令和３年４月＞ 博士（体育学）
		スポーツ心理学特殊研究
兼任	講師	Christopher Blaine Simons (59) ＜令和３年４月＞ 学士(Bachelor of Arts) (米国)
		Sports Academic English

- ・「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- ・その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
- ・専任（専門職大学院等）、兼任、兼（研）、兼（実）、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除し、結めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現 在（報告時）の 状 況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
7	1	4	0	12	0	7	1	4	0	12	0
[7]	[1]	[4]	[0]	[12]	[0]						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
8	1	3				8	1	3			
[8]	[1]	[3]									
現 在（報告時）の 完 成 年 度 時 の 状 況						現 在（報告時）の 完 成 年 度 時 の 計 画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
7	1	4	0	12	0	7	1	4	0	12	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
8	1	3				8	1	3			
[0]	[0]	[0]									

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{12} = \boxed{8.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0.00} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由 「該当なし」

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までには専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番	職	位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由					
合計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までには専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{12} = 0 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年)	1. 氷雪寒冷圏域の生涯スポーツの深化・発展を果すため、スポーツ動作の理論化や冬期スポーツを主とする競技スポーツの研究手法を身に付ける『スポーツ科学』と、氷雪寒冷圏域特有の健康問題や運動を制限する要因をふまへ、生涯スポーツ活動を推進する『生涯スポーツ学』の領域を設定する」という本課程における2つの研究分野の設定趣旨について、本学が掲げる「生涯スポーツ学」や修士課程における3つの研究分野との関係も含めて、学内外に対して適切に周知徹底を図ること。	遵守事項 本課程における2つの研究分野（「スポーツ科学」と「生涯スポーツ学」）の設定主旨について、「生涯スポーツ学」や修士課程における3つの研究分野（「スポーツ科学」、「応用健康科学」、「スポーツ教育学」）との関係性を学内外に周知するために、「開設記念シンポジウム～北からのスポーツ科学のメッセージ～」を実施した（令和2年12月18日、対面・遠隔併用）。51名の参加者があり、本研究科の設置の趣旨、研究内容、修士課程との関係性について周知することができた。 また、新聞広告を3日間連続して実施し、本課程の開設について広く周知した。 さらに、本課程のパンフレット、大学ホームページ、学生便覧においても研究分野の設定趣旨について周知徹底を図っている。	履行中 令和3年12月に第2回開設記念シンポジウムを実施するとともに、研究活動・成果を学内外へ発表する機会を通じて、本研究科の目的、研究分野、修士課程との関係性などの周知徹底に努める。また、パンフレット、大学ホームページ、学生便覧等においても継続して周知徹底を図る。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)		留意事項	履行中

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。
その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程>

(1) 設置計画変更事項等 「該当なし」

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD支援委員会を設置している

（関連規程 「FD規程」「教育支援総合センター規程」「運営企画会議規程」）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

FD支援委員会 月1回開催、その他臨時開催

（構成員は、教員6名、職員1名）

c 委員会の審議事項等

- ・ 授業評価の実施に関する事項
- ・ 教授方法等の改善のための支援に関する事項
- ・ FD推進・啓発を目的とした講演会、教職員研修会に関する事項
- ・ その他FDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容 b 実施方法 c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和2年度実績

(1) 第1回FD／SD研修会 「Microsoft Teams (Forms) Zoom」について

令和2年4月15日～16日の2日間

Microsoft Teams/Forms/Zoom について、対面及び遠隔で講習会を開催

参加者数44名（うち教員32名）

(2) 第2回FD／SD研修会 「初任者研修」

令和2年4月21日 本学新任教員に向けて研修会を開催

本学の沿革と大学を取り巻く状況、本学の教育課程と授業、FD活動について説明

参加者数10名

(3) 第3回FD／SD研修会 「ICT等を使った実施事例報告」

令和2年11月17日 全学向けリアルタイム配信による遠隔研修会を開催

本学教員有志がICTを活用した授業事例などを本学教職員向けに紹介

参加者76名（うち教員56名） ※録画配信視聴者除く

(4) 第4回FD／SD研修会 「ICT相談会から次年度に向けて」

「ICT相談会」で挙がった話題のうち有益な内容を、本学教職員に紹介する研修会

令和3年2月16日 全学向けリアルタイム配信による遠隔研修会を開催

参加者61名（うち教員50名） ※録画配信視聴者除く

(5) ICT相談会

令和2年11月30日から週3～4回程度テレビ会議による相談会を開催

本学教職員自由参加で、質疑応答、新技術紹介やアドバイスなどをサポート

1日当たりおおよそ20分～60分程度 64回開催 延べ334名参加

令和3年5月1日時点で継続開催中

(6) その他

- ・ 本学非常勤講師向け Microsoft Forms 講習会

令和2年7月28日 非常勤講師向け Microsoft Forms 講習会を開催

本学教員を講師として、対面にて実機を使い操作方法など説明／フォローアップ

- ・ 江別4大学合同FD・SD 「市内4大学における遠隔授業の現状と課題」

令和3年3月17日 オンライン開催

本学FD支援委員長が事例発表報告

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育を取り巻くICT動向や事例などを共有し、参加者自身の「新技術への気づき」

「スキル向上」を促進し、以て合理的/効果的な授業改善が期待できる。

遠隔授業の多様化に伴い、低難易度から幅広く研修会を継続開催する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和2年度 前期、後期の2回実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

実施したアンケートを結果を取り纏め、研究科にフィードバックして検討

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科においては、「北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における豊かな生涯スポーツ社会の発展に向けて、スポーツ科学・生涯スポーツ学に関する高度な専門的知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を備えた研究者及び高度職業人の養成」を目的としている。教育課程は、スポーツ動作の理論化や冬季スポーツを主とする競技スポーツの研究手法を身に付ける「スポーツ科学」と、氷雪寒冷圏域特有の健康問題や運動を制限する要因をふまえ、生涯スポーツ活動を推進する「生涯スポーツ学」の2研究分野からなる。

開設に向けて、院生研究室の設置、研究機器・備品の整備、教育課程（授業科目）の開設など、申請通りに実施した。入学者選抜では、定員3名に対し4名の受験者があり、アドミッション・ポリシーに基づき、3名を合格とした。

令和3年度の入学者の研究内容は、「冬季スポーツにおけるモーグルスキー競技の技術分析に関する研究」、「高齢者の健康運動の行動変容とQOL向上に関する研究」、「高齢者の栄養・運動実施に関する研究」であり、本研究科の目的とする冬季スポーツの競技力向上や高齢者の健康問題・QOL向上に合致する内容となっている。

以上のように設置認可申請とおりに適正に運営することができている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

記入例)

・令和3年12月15日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年12月中旬を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

記入例)

・令和6年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☐ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☐ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ ☐ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。

北翔大学 F D 規程

(趣旨)

第1条 この規程は、北翔大学学則第43条の2第2項、北翔大学大学院学則第41条の2第2項及び北翔大学短期大学部学則第40条の3第2項の規定に基づき、北翔大学、北翔大学大学院及び北翔大学短期大学部（以下「本学」という。）の授業の内容及び方法の改善を図るため、全学的な研修及び研究（以下「F D」という。）の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(F D 活動)

第2条 本学は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる活動を行うものとする。

- (1) 教員の教育能力向上のための教育技術の開発・向上、授業計画の立案、学習に関する理論の研究及び教育評価方法の習得のための活動
- (2) 教育課程の開発・向上のための授業計画の立案、学習に関する理論の研究及び教育評価方法の習得のための活動
- (3) 教育目的を達成するための教員組織、単位制、クラス編成、修学及び生活指導体制並びに施設向上のための活動
- (4) F D 推進・啓発を目的とした活動

(F D 活動の実施方針)

第3条 運営企画会議は、前条に定めるF D 活動の実施方針を決定するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業改善のため基本方針及び実施体制に関する事項
- (2) 授業評価の実施に関する事項
- (3) 教授方法等の改善のための支援に関する事項
- (4) F D 推進・啓発を目的とした講演会、教職員研修会に関する事項
- (5) その他F D に関する事項

2 前項で審議された事項の実施については、学長がこれを決定する。

(F D 支援オフィス及びF D 支援委員会)

第4条 F D 支援オフィスは、前条により決定したF D 諸活動実施方針に基づき、具体的な実施計画を企画・立案し、F D 支援委員会の議を経て、これを実施する。

2 F D 支援オフィス及びF D 支援委員会の必要な事項については、北翔大学教育支援総合センター規程の定めによる。

(活動報告)

第5条 F D 支援委員会は、F D 活動の実施状況について運営企画会議に報告するものとする。

(結果の公表)

第6条 F D 支援委員会は、F D 活動の実施結果について、可能な限り公表するとともに、広く閲覧に供するものとする。

(結果の活用)

第7条 各学部等の長並びに構成員は、FD活動の結果を真摯に受け止め、第2条各号に掲げる諸活動の更なる活性化、及び教育の質の向上に努めるとともに、改善が必要と認められる事項については、自ら改善に努めなければならない。

2 学長は、FD活動の実施結果に基づき、組織的に改善することが必要と認められる事項については、各学部等の長並びに構成員に対し改善を勧告するとともに、必要に応じて改善策の検討を指示することができる。

(改正)

第8条 この規程の改正は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成16年7月6日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則（校名変更及び機構改正に伴う改正）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（校名変更及び組織の変更に伴う改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（組織の変更に伴う改正）

この規程は、平成21年5月12日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成22年8月10日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年8月7日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年8月1日から施行する。

附 則（運営企画会議規程の改正に伴う改正）

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

北翔大学大学院 生涯スポーツ学研究科
生涯スポーツ学専攻 博士後期課程

開設記念シンポジウム

～北からのスポーツ科学のメッセージ～

川西 正志 教授・研究科長（令和3年4月就任）

「大学院博士後期課程の設置の趣旨と養成する人材像」

山本 敬三 教授

「冬季スポーツを支えるスポーツ科学～スキージャンプの技術分析～」

小坂井 留美 教授

「健康長寿を支える健康科学～地域住民の縦断研究から～」



令和2年12月18日（金）17:00-18:15
北方圏生涯スポーツ研究センター 6 階

北海道唯一「博士（スポーツ科学）」を取得できる博士後期課程 令和3年4月開設

 北翔大学大学院

TEL:011-386-8011

mail:hokushokouza@hokusho-u.ac.jp

北翔大学大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 開設記念シンポジウム

北翔大学大学院生涯スポーツ学研究科では、令和3年4月に東北以北では初、北海道唯一の「博士（スポーツ科学）」の学位を取得できる博士後期課程を開設することを記念し、開設記念シンポジウムを開催いたします。多くの方の聴講をお待ちしております。

1. 開催内容

日時：令和2年12月18日（金）17時～18時15分

会場：北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター（スポル）6階大会議室

2. 参加申し込み方法

北翔大学地域連携センターまで、メールで、ご氏名、所属、連絡先をお申し込みください。

e-mail hokushokouza@hokusho-u.ac.jp

お問い合わせ先：電話 011-387-3939（平日 9:00-17:00）



3. 日程概要

17:00 開会のことば（竹田唯史 教授）

17:05 基調講演 川西正志 教授（20分）

「大学院博士後期課程の設置の趣旨と養成する人材像」

17:25 シンポジスト 山本敬三 教授（20分）

「冬季スポーツを支えるスポーツ科学～スキージャンプの技術分析～」

17:45 シンポジスト 小坂井留美 教授（20分）

「健康長寿を支える健康科学～地域住民の縦断研究から～」

18:05 質疑応答（10分）

18:15 閉会のことば（竹田唯史 教授）

シンポジスト紹介

教授 川西 正志 かわにし まさし



研究テーマ
生涯スポーツの社会学的研究等
社会活動
日本体育学会体育社会学専門分
科会：現専門領域（会長）、日
本生涯スポーツ学会（会長）等
を歴任

教授 小坂井 留美 こさかい るみ

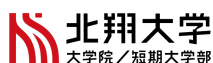


研究テーマ
高齢期までの生涯発達過程にお
ける心身の変化と運動の意義に
関する研究
社会活動
日本体力医学会、日本老年社会
科学会、ヨーロッパスポーツ科
学会等所属

教授 山本 敬三 やまもと けいぞう



研究テーマ
バイオメカニクスと流体力学を用
いたスキージャンプのパフォーマ
ンス向上に関する研究
社会活動
日本バイオメカニクス学会、日本
機械学会（運営委員）、全日本ス
キー連盟情報医科学部専門委員



本学について

学部・大学院

学生生活

就職・進路

社会連携・生涯学習

ご利用者様ガイド

トップページ

生涯スポーツ学研究科 新着情報

最新のエントリー

アーカイブ

新着情報

大学からのお知らせ
図書館ニュース
札幌円山キャンパスニュース
臨床心理センターニュース
教育支援総合センターニュース
卒業生の方へのお知らせ
教職センターニュース
教員採用候補者選考検査について
免許状更新講習ニュース
地域連携センターニュース
学生相談室ニュース
保健センターニュース
特別サポートルームニュース
国際交流ニュース

学生の活躍

入試情報

生涯スポーツ学部
生涯スポーツ学部
スポーツ教育学科
健康福祉学科

教育文化学部

教育文化学部

教育学科

芸術学科

心理カウンセリング学科

短期大学部

短期大学部

ライフデザイン学科

こども学科

大学院

大学院

人間福祉学研究科

生涯学習学研究科

生涯スポーツ学研究科

研究関連情報

生涯スポーツ学研究科 新着情報

「大学院生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 開設記念シンポジウム」について

2020.11.13 生涯スポーツ学研究科

以下の日程で、「大学院生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 開設記念シンポジウム」をリモートにて開催いたします。是非ともご参加ください。

日時：令和2年12月18日（金）17時～18時15分

対象：インターネットに接続できるパソコンやスマートフォンをお持ちの方

（通信料はご負担ください。パソコンにカメラやマイクがなくてもご視聴いただけます。）

形態：リモートオンライン（ZOOM）により参加となります。

参加申し込み：

以下のURLから、ご入力お願い致します。

<https://bit.ly/3eAK8Qn>

折り返し、ZOOMのURLをお知らせします。

お問い合わせ先：電話011-387-3939（平日9:00-17:00）地域連携センター

大学院生涯スポーツ学研究科
研究科長 川西 正志
（令和3年4月就任）

最新のエントリー

アーカイブ

新着情報

大学からのお知らせ

図書館ニュース
札幌円山キャンパスニュース
臨床心理センターニュース
教育支援総合センターニュース
卒業生の方へのお知らせ
教職センターニュース
教員採用候補者選考検査について
免許状更新講習ニュース
地域連携センターニュース
学生相談室ニュース
保健センターニュース
特別サポートルームニュース
国際交流ニュース

学生の活躍

入試情報

生涯スポーツ学部
生涯スポーツ学部
スポーツ教育学科
健康福祉学科

教育文化学部

教育文化学部
教育学科
芸術学科
心理カウンセリング学科

短期大学部

短期大学部
ライフデザイン学科
こども学科

大学院

大学院
人間福祉学研究科
生涯学習学研究科
生涯スポーツ学研究科

研究関連情報

生涯スポーツ学研究科 新着情報

大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻 博士後期課程開設記念シンポジウムが開催されました。

2020.12.22 生涯スポーツ学研究科

令和2年12月18日（金）17時～18時30分まで、「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻 博士後期課程開設記念シンポジウム」が開催されました。当該大学院は、令和3年4月に開設することが、10月23日に文部科学省から認可され、その開設を記念するシンポジウムを開催しました。感染防止対策を徹底し、外部からの対面参加が11名、リモートには、51名の申し込みがありました。

以下の3名のシンポジストによる発表が行われ、博士課程の設置の意義や冬季スポーツ研究、高齢者の健康問題に関する研究について紹介されました。

生涯スポーツ学部
学部長 竹田唯史

シンポジストとテーマ

教授 川西正志：「大学院博士後期課程の設置の趣旨と養成する人材像」



教授 山本敬三：「冬季スポーツを支えるスポーツ科学～スキージャンプの技術分析～」

論文・著書

研究成果

社会連携・生涯学習

報道



教授 小坂井留美：「健康長寿を支える健康科学～地域住民の縦断研究から～」





戻る



Copyright ©2013 by Hokusho-u.ac.jp All right reserved.

▲ Back to Top

[サイトマップ](#) [アクセスガイド](#) [お問い合わせ](#) [関連サイト](#) [プライバシーポリシー](#)

新着情報

最新順
大学からのお知らせ
学生の活躍
入試情報
生涯スポーツ学部
教育文化学部
短期大学部
大学院
社会連携・生涯学習

本学について

学長挨拶
大学名称について
法人情報
沿革
寄付金について
北翔大学同窓会
大学広報誌 [pal]
情報の公表
情報の公表（教職課程）
情報の公表（介護福祉士養成課程）
学則
教職員募集
北翔大学学術リポジトリ

学部・大学院

学部・大学院・短大一覧

学生生活

イベント・行事
キャンパスガイド
クラブ・サークル
教育支援総合センター
教職センター
資格取得・ボランティア
学生相談室
保健センター
体育管理センター
オフィスアワー
特別サポートルーム
図書館

就職・進路

就職サポートシステム
現在の就職活動
キャリア支援の流れ
就職・進路データ

社会連携・生涯学習

公開講座
生涯学習
ボランティア
高大連携
あかびら・地域まるごと元気アップ
プログラム
産業界ニーズ事業
北方圏学術情報センター/札幌円山
キャンパス
北方圏生涯スポーツ研究センター
SPOR
出張講義
大規模自然災害に伴う北翔大学入学
希望者への就学支援について
保育士資格取得特例講座

総合案内

在学生の方へ
卒業生の方へ
受験生の方へ
保護者の方へ
企業の方へ
旧サイトへ

Language

English（英語）
Korean（韓国語）
Chinese Big5（繁体語中国語）
Chinese GB（簡体語中国語）

Language [English](#) [Korean](#) [Chinese Big5](#) [Chinese GB](#)

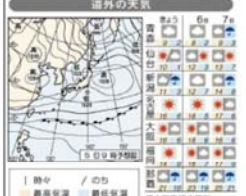
総合案内 [在学生の方へ](#) [卒業生の方へ](#) [受験生の方へ](#) [保護者の方へ](#) [企業の方へ](#)



[サイトマップ](#) [アクセスガイド](#) [お問い合わせ](#) [関連サイト](#) [プライバシーポリシー](#)



〒069-8511
北海道江別市文京台23番地
TEL 011-386-8011 (代)
FAX 011-387-3739
www.hokusho-u.ac.jp
info@hokusho-u.ac.jp



きょうの気温 きょうの道と風

4日

道庁管内	最高気温	最低気温
札幌	10.0	-1.0
旭川	10.0	-1.0
網走	10.0	-1.0
紋別	10.0	-1.0
稚内	10.0	-1.0
室蘭	10.0	-1.0
苫小牧	10.0	-1.0
千歳	10.0	-1.0
札幌近郊	10.0	-1.0
石狩	10.0	-1.0
釧路	10.0	-1.0
帯広	10.0	-1.0
旭川近郊	10.0	-1.0
網走近郊	10.0	-1.0
紋別近郊	10.0	-1.0
稚内近郊	10.0	-1.0

次女死亡経緯「知らぬ」
旭川市で母、供述を二変

旭川市で母、供述を二変

旭川市で母、供述を二変

2020.12.5

2020.12.5

2020.12.5

まひぶんワイズ

4万年前、支笏火山の噴火で発生した火砕流が札幌市南側に冷えて固まった岩石は？ 今も札幌市南側に採取されている。

北翔大学

令和3年4月 北翔大学スポーツ科学センター(仮称) OPEN

アスリートの競技力向上を目指す医科学サポートや、地域住民の健康づくりの実践的研究を行い、北海道の生涯スポーツを推進する科学センターが誕生します。

設置許可取り消しに涙

大飯原発訴訟 原告、積年の思い結実

多くの原発が廃止される。大飯原発訴訟の原告、積年の思い結実。設置許可取り消しに涙。

「はやぶさ2」帰還「順調」

宇宙航空研究開発機構 成功に自信

宇宙航空研究開発機構は「はやぶさ2」の帰還に成功に自信を示している。

教員免許失効掲載せず

官報に掲載 関係者など免職6人

官報に掲載された関係者など免職6人の教員免許失効掲載が問題となっている。

2020年交通死亡

北海道28人

2020年北海道の交通死亡者は28人であった。

北翔大学

令和3年4月 北翔大学スポーツ科学センター(仮称) OPEN

国際家畜基準「反対を」

鶏卵大手、吉川元農水相に

鶏卵大手の吉川元農水相は国際家畜基準の反対を表明している。

国内死者最多45人

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症の国内死者は最多の45人となった。

要望直後、現金提供か

関係者によると、吉川氏

関係者によると、吉川氏は要望直後に現金提供を行う可能性がある。

おたくの健康

おたくの健康

おたくの健康に関する記事。

北翔大学

令和3年4月 北翔大学スポーツ科学センター(仮称) OPEN

要望直後、現金提供か

関係者によると、吉川氏

関係者によると、吉川氏は要望直後に現金提供を行う可能性がある。

国内死者最多45人

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症の国内死者は最多の45人となった。

国内の新型コロナウイルス感染者数

道庁管内	感染者数
札幌	157,830
旭川	1,184
網走	1,184
紋別	1,184
稚内	1,184
室蘭	1,184
苫小牧	1,184
千歳	1,184
札幌近郊	1,184
石狩	1,184
釧路	1,184
帯広	1,184
旭川近郊	1,184
網走近郊	1,184
紋別近郊	1,184
稚内近郊	1,184

おたくの健康

おたくの健康

おたくの健康に関する記事。

北翔大学

令和3年4月 北翔大学スポーツ科学センター(仮称) OPEN

6年の長旅「お帰り」

砂漠の夜空 光の軌跡 豪南部

【クーパーベド 共同】「クーパーベド」は、南緯30度の砂漠にあり、夜空には星が輝く。砂漠の夜空は、星の軌跡が描かれる。豪南部の砂漠は、星の軌跡が描かれる。豪南部の砂漠は、星の軌跡が描かれる。



豪南部の砂漠に集まる人々。星の軌跡が描かれる夜空を背景に、人々の姿が写っている。

PV会場 未明の歓喜 相模原

【相模原市 共同】相模原市で、太陽光発電の展示会が開かれた。会場には、最新の太陽光発電パネルが展示されている。未明の時間帯にもかかわらず、多くの人々が会場を訪れ、パネルの仕組みや最新の技術について質問している。

子どもたち 夢見る奇跡

【東京 共同】東京で、子どもたちが夢見る奇跡の展示が開かれた。展示には、最新の科学技術が紹介されている。子どもたちは、展示を見ながら、夢を語り、未来を想像している。

西洋の魔女エース

【東京 共同】東京で、西洋の魔女エースの展示が開かれた。展示には、魔女の衣装や魔法の道具が展示されている。来場者は、魔女の衣装を着て、魔法の体験ができる。

核ごみ調査 揺れるまち

⑤ まちの将来

【東京 共同】核のごみ調査の結果、まちの将来が揺れている。調査の結果、核のごみの処理方法について、まちの住民の間で議論が起きている。住民たちは、核のごみの処理方法について、自分のまちの将来を心配している。

「幸せ」住民の知恵で

町頼りの協会

【東京 共同】町に頼る住民の知恵で、町に頼る協会が設立された。協会の目的は、町に頼る住民の知恵を共有し、まちの発展に貢献することである。協会の設立は、まちの住民にとって、大きな喜ばしい出来事である。



町に頼る住民の知恵を共有する町に頼る協会のメンバーたち。

過疎に危機感

【東京 共同】過疎に危機感を覚える住民が増えている。過疎は、まちの将来にとって、大きな問題である。住民たちは、過疎を防ぐために、様々な対策を講じている。

子どもたち 夢見る奇跡

【東京 共同】東京で、子どもたちが夢見る奇跡の展示が開かれた。展示には、最新の科学技術が紹介されている。子どもたちは、展示を見ながら、夢を語り、未来を想像している。

西洋の魔女エース

【東京 共同】東京で、西洋の魔女エースの展示が開かれた。展示には、魔女の衣装や魔法の道具が展示されている。来場者は、魔女の衣装を着て、魔法の体験ができる。



日本気象協会提供									
雪のつく気温 雪のうたの嵐									
6日									
7日									
最高	最低	降雪	降雪	降雪	降雪	降雪	降雪	降雪	降雪
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
札幌	7.0	5.0	1.0	4.5	晴	晴	晴	晴	晴
旭川	5.0	3.0	0.0	3.0	晴	晴	晴	晴	晴
網走	5.0	3.0	2.0	4.0	晴	晴	晴	晴	晴
紋別	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
稚内	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
室蘭	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴	晴	晴	晴
苫小牧	4.0	2.0	0.0	2.0	晴	晴			

Academic Staff - 指導教員 -

生涯スポーツをあらゆる角度から極める教授陣が最先端の研究をサポートします。

教授※	教授※	教授※
 川西 正志 KAWANISHI Masashi 体育学修士 研究テーマ/生涯スポーツの社会学的研究等 社会活動/日本体育学会体育社会学専門分科会：現専門領域(会長)、日本生涯スポーツ学会(会長)等を歴任	 井出 幸二郎 IDE Kojiro Ph.D 研究テーマ/脳の血管と認知機能に対する運動習慣による影響について 社会活動/日本体力医学会会員、日本体育学会会員、アメリカ生理学会会員、アメリカスポーツ医学会会員	 沖田 孝一 OKITA Koichi 博士(医学) 研究テーマ/スポーツにおける回復力、疲労耐性や運動能力向上に関する研究 社会活動/日本スポーツ協会認定スポーツドクターとして北海道民のメディカルチェックやエリート競技者を育成
教授※	教授※	教授※
 小田 史郎 ODA Shiro 博士(教育学) 研究テーマ/良好な睡眠を維持・改善するための運動や生活行動に関する研究 社会活動/日本睡眠学会会員、日本体力医学会会員、日本認知症予防学会代議員	 小坂井 留美 KOZAKAI Rumi 博士(医学) 研究テーマ/高齢期までの生涯発達過程における心身の変化と運動の意義に関する研究 社会活動/日本体力医学会、日本老年社会科学院、ヨーロッパスポーツ科学院等所属	 竹田 唯史 TAKEDA Tadashi 博士(教育学) 研究テーマ/冬季スポーツ選手の体力・技術・指導方法に関する研究 社会活動/Asia Association of Coaching Science(理事)、日本体育学会、日本スキー学会(理事)
教授※	准教授	講師
 山本 敬三 YAMAMOTO Keizo 博士(工学) 研究テーマ/バイオメカニクスと流体力学を用いたスキージャンプのパフォーマンス向上に関する研究 社会活動/日本バイオメカニクス学会、日本機械学会(運営委員)、全日本スキー連盟情報医科学部門専門委員	 花井 篤子 HANAI Atsuko 博士(体育科学) 研究テーマ/アクアフィットネスを活用した健康づくりや運動処方に関する研究 社会活動/日本体育学会、日本体力医学会、日本水泳水中運動学会、Biomechanics and Medicine in Swimming、日本生理人類学会	 畠中 智志 UNENAKA Satoshi 博士(体育学) 研究テーマ/アスリートの熟達化および知覚から行動までの認知的処理 社会活動/日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本バスケットボール学会、北海道大学バスケットボール連盟理事
講師	講師※	講師
 黒田 裕太 KURODA Yuta 博士(教育学) 研究テーマ/競技パフォーマンスの向上および低下抑制に寄与する栄養戦略の構築 社会活動/日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、北海道テニス協会ジュニア育成委員・医科学委員	 高田 真吾 TAKADA Shingo 博士(医学) 研究テーマ/運動・骨格筋由来の内分泌因子の役割や機序解明における研究 社会活動/日本体力医学会会員(評議員)、アメリカ生理学会会員、アメリカスポーツ医学会会員、米国心臓病学会会員	 吉田 昌弘 YOSHIDA Masahiro 博士(理学療法学) 研究テーマ/スポーツ外傷・傷害から安全に競技復帰するための評価手法の考案 社会活動/日本アスレティックトレーニング学会、日本臨床スポーツ医学会、日本スケート連盟ショートトラック医科学スタッフ(トレーナー)

※研究指導教員

Recruitment - 募集について -

募集人員・修業年限

- 生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 3名
- 標準修業年限3年(長期履修制度により最長6年まで在学可能)

長期履修制度 標準修業年限3年では教育課程の履修が困難な場合、6年間で修学することが可能です(事前申請が必要です)。

取得学位

- 博士(スポーツ科学) Doctor of Philosophy in Sport Sciences

予想される進路

- 大学・研究所等での研究職員
- 国立スポーツ科学センター(JISS)や都道府県設置の医科学センターにおける研究員
- プロ・実業団スポーツチームにおけるコーチ、動作分析・戦術アナリスト
- 研究用計測機器を製造・販売する企業の専門的研究技術職
- 地域スポーツ振興を担う都道府県職員・公的機関
- 総合型地域スポーツクラブの職員・マネージャー
- 医療施設・健康づくり施設での健康運動指導者

北翔大学大学院 生涯スポーツ学研究科
生涯スポーツ学専攻 博士後期課程北海道唯一
「博士(スポーツ科学)」を
取得できる博士後期課程
令和3年4月誕生

「生涯スポーツ学」を探究する、北海道唯一の研究拠点。

北翔大学大学院 生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程

今日、人々が生涯にわたってスポーツに親しみ、豊かで活力ある社会を実現することが求められています。本研究科は、北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ社会の発展に向けて、運動・スポーツや健康に関する高度な学術的研究能力と専門的技能を修得し、地域に根ざした生涯スポーツ振興の指導的役割を果たす人材を養成します。豊かな生涯スポーツ社会の実現と一緒に目指していきましょう。

NEW

北海道唯一、スポーツ科学の博士後期課程が誕生。

北の研究拠点として、国際的に活躍する博士学位を有する研究者を養成します。
科学的専門知識をもとに、生涯スポーツ社会の発展に貢献するスペシャリストを目指しましょう。

冬季スポーツの競技力向上



健康寿命を延ばすための健康づくり



ディプロマ・ポリシー<学位授与方針>

北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における豊かな生涯スポーツ社会の発展に向けて、スポーツ科学・生涯スポーツ学に関する高度な専門知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を備え、研究成果が国内外で認められた者、当該分野で指導的な役割を担える者に学位を授与する。

アドミッション・ポリシー<入学者受け入れ方針>

運動やスポーツ、健康に関する学術研究や科学的知識及び専門的技能を有する人材を求める。スポーツを科学的に分析する能力を有する人材や、生涯スポーツ活動の推進、健康増進のための研究能力を有する人材を受け入れる。また、博士後期課程の研究を遂行するために必要な英語能力を有すること。なお、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教員の高度専門家の観点から、社会人の入学を積極的に受け入れる。

カリキュラム・ポリシー<教育課程編成方針>

院生の研究能力について専門的に深化できるよう、教育課程を共通科目、専門科目及び研究指導科目の3領域で構成する。共通科目では、国際的な研究能力を身につけるため、英文読解と作文能力及びプレゼンテーション能力を養う。専門科目はスポーツ科学研究分野と生涯スポーツ学研究分野の2分野で編成される。スポーツ科学研究分野では、運動生理学やバイオメカニクス、トレーニング科学などの研究手法を修得し、冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツの科学的分析・研究能力を養う。生涯スポーツ学研究分野では、応用健康科学、生涯スポーツ学、スポーツ教育学などの研究手法を用いて、地域住民の健康問題の解決や生涯スポーツの振興に貢献できる研究能力を養う。研究指導科目では、複眼的な指導・評価体制で実施し、修業年限内に博士論文を完成できるよう段階的に構成する。

[博士後期課程における研究分野]

スポーツ科学研究分野

■スポーツ医科学
■スポーツ生理学
■スポーツバイオメカニクス
■アスレティック
リハビリテーション
■スポーツ栄養学
■スポーツ心理学

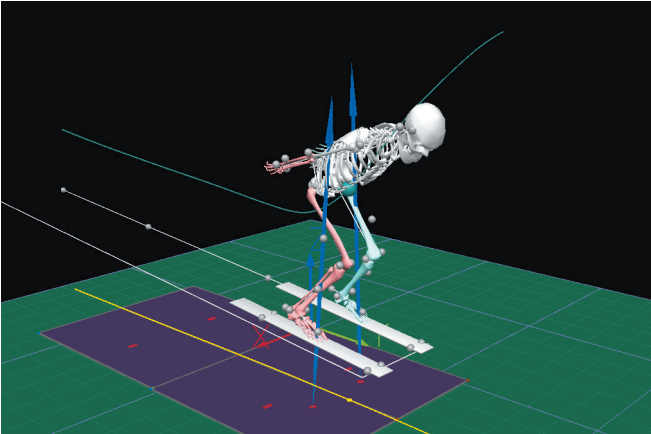
生涯スポーツ学研究分野

■生涯スポーツ学
■スポーツ老年学
■休養・睡眠学
■健康運動科学
■アクアフィットネス
■冬季スポーツ指導

Facilities

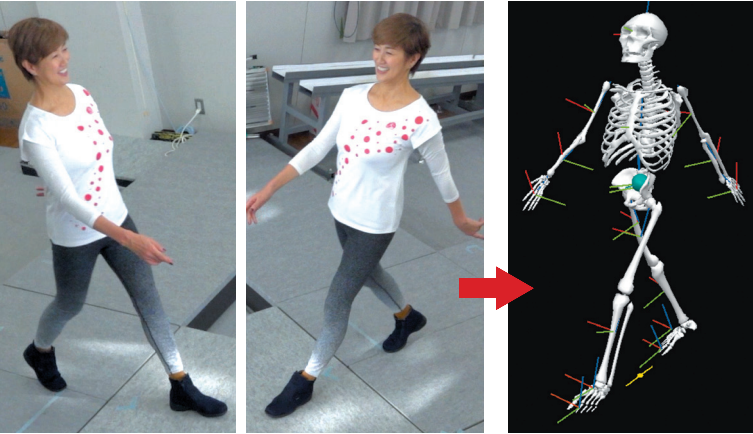
ー設備・研究機器ー

運動やスポーツなどの身体動作を科学的・定量的に分析できる研究機器も揃っています。



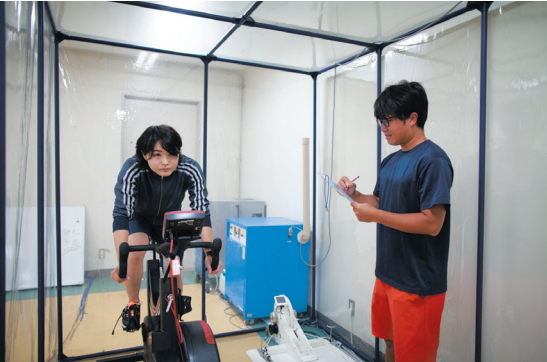
光学式モーションキャプチャシステム

身体に赤外線反射マーカを貼付し、赤外線カメラで撮影することで、マーカの三次元座標を計測することができる装置です。床反力計や表面筋電計と同期計測することで、身体運動における姿勢や動き、力や筋活動を記録することができます。



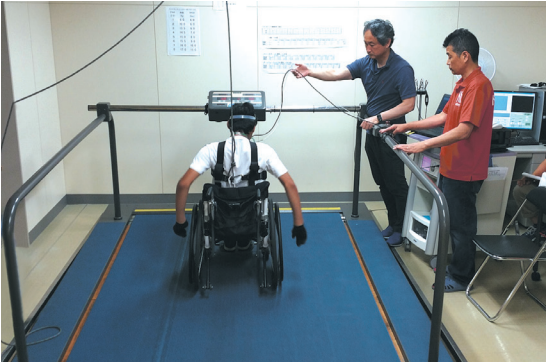
マーカース・モーションキャプチャーシステム

Theia3Dは次世代のマーカース・モーションキャプチャーシステムです。被験者は普段通りの服装でモーションキャプチャーが可能です。カメラ映像から独自AIによって自動で人体の骨格データのみを認識し、最適なモデルが適用されます。後処理が全く不要であるため、短時間でより多くのデータを解析することが可能です。



低酸素制御装置

低酸素環境を人工的に作り出し、有酸素能力の向上や高地順応のためのトレーニングが可能です。有酸素及び無酸素性持久力向上のトレーニング方法の開発に利用されます。



呼吸ガス分析装置・大型トレッドミル

安静時および運動時に呼吸ガス分析を行い、エネルギー消費量を算出することができます。漸増負荷運動時に用いることにより、有酸素性作業能力の有効な指標である換気性閾値や最大酸素摂取量を測定することができます。

Curriculum

ーカリキュラムー

充実のカリキュラムで専門的な知識と技能を修得することができます。 詳細はHPへ▶

Process

ー学位取得までのプロセスー

1年次	2年次	3年次	学位授与 博士(スポーツ科学)
■研究進捗報告会で進捗状況を報告	■国際学会等で研究発表及び学術誌への論文投稿	■論文提出 【提出条件】 ・筆頭著者として査読付き論文の掲載が2編以上決定されていること ・国際学術会議での研究発表を1回以上行っていること ■学位審査(論文審査、口頭試問、発表審査会)	

Support for Working People

ー社会人へのサポートー

■一部夜間の授業実施や休日、長期休業中における集中講義等にて対応します。
■最長6年まで在学できる「長期履修制度」もあわせて有効活用することで、仕事をしながら学位取得が可能です。

重要！ 新型コロナウイルス感染症対策に関する本学の対応について

受験生サイトはこちら

[English](#)[Korean](#)[Chinese Big5](#)[Chinese GB](#) 検索[本学について](#)[学部・大学院](#)[学生生活](#)[就職・進路](#)[社会連携・生涯学習](#)[ご利用者様ガイド](#)[トップページ](#)[学部・大学院・短大一覧](#)[大学院](#)[生涯スポーツ学研究科](#)[生涯スポーツ学研究科 修士課程](#)[研究科長挨拶](#)

学部・大学院

[生涯スポーツ学部](#)[学部長挨拶](#)[スポーツ教育学科](#)[・教員紹介](#)[健康福祉学科](#)[・教員紹介](#)[教育文化学部](#)[学部長挨拶](#)[教育学科](#)[・教員紹介](#)[芸術学科](#)[・教員紹介](#)[心理カウンセリング学科](#)[・教員紹介](#)[短期大学部](#)[ライフデザイン学科](#)[・教員紹介](#)[こども学科](#)[・教員紹介](#)[大学院](#)[人間福祉学研究科 修士課程](#)[・研究科長挨拶](#)[・教員紹介（人間福祉学専攻）](#)[・教員紹介（臨床心理学専攻）](#)[生涯学習学研究科 修士課程](#)[・研究科長挨拶](#)[・教員紹介](#)[生涯スポーツ学研究科 修士課程](#)[・研究科長挨拶](#)[・教員紹介](#)[生涯スポーツ学研究科 博士後期](#)[課程](#)[・研究科長挨拶](#)[・教員紹介](#)

研究科長挨拶

文部科学省が平成24年に策定した「スポーツ基本計画」では、スポーツの果たす役割を踏まえ「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策方針としました。さらに、平成29年に策定された「第2期スポーツ基本計画」では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を好機として、「スポーツ参画人口を拡大し、スポーツ界が他分野との連携・協同を進め、一億総スポーツ社会を実現する」ための具体的な政策目標が提示されています。こうした国の政策実現に貢献し得る研究の蓄積と有為な人材の養成を目指すことは高等教育機関として重要な社会的ミッションであることは言うまでもありません。

そのため、本学「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻修士課程」では、生涯スポーツを「生涯にわたる各ライフステージにおいて、個人の興味・関心・年齢・体力等に応じて実施するスポーツ活動」と捉え、老若男女を問わず、また、健康者や障がい者を問わず、生涯にわたる各ライフステージで実施される運動・スポーツ活動を対象にした生涯スポーツ学の基礎的かつ実践的な教育研究を行うことを目的としています。

具体的な研究対象は、幼年期における幼児体育、青少年期から成人期にかけての学校体育や競技性の強いスポーツ、壮年期から中年期・老年期における健康づくりや生きがいづくりを目標とした運動・スポーツ等を幅広く扱っています。スポーツ科学、健康科学、教育学などの研究分野からのアプローチによる研究を目指しています。

「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程」では、生涯スポーツ学を「人の生涯の各ライフステージで継続的に実施され、様々な目的や興味・関心に基づいて行われる運動・スポーツの諸現象に対して、自然科学から人文・社会科学にわたるスポーツ科学の学際的研究アプローチによる基礎的・応用的・実践的研究」と定義し、それらを実施することにより、高度な専門的研究者や高度職業人（指導者）を養成することを設置の趣旨の骨子としています。具体的には、運動・スポーツに関する医学・生理学・バイオメカニクス・リハビリテーション学・栄養学・心理学等を主軸とする「スポーツ科学研究分野」と、生涯スポーツ学・老年学・健康科学・コーチ学・教育学等を主軸とする「生涯スポーツ学研究分野」による研究の専門化と融合を図り、それらの学際的連携から生涯スポーツ学研究の高度化と専門性の深化を達成することを重視しています。

本学に設置された大学院生涯スポーツ学研究科 博士後期課程は、東北以北で初めての「博士（スポーツ科学）」を取得できる大学院です。本学大学院修士課程からの進学はもとより、広く社会人で博士学位の取得を目指す方も、大学院生涯スポーツ学研究科 博士後期課程での研究活動に挑戦してください。



生涯スポーツ学研究科 研究科長（令和3年4月就任）
川西 正志（かわにし まさし）



本学について

学部・大学院

学生生活

就職・進路

社会連携・生涯学習

ご利用者様ガイド

[トップページ](#)

[学部・大学院・短大一覧](#)

[大学院](#)

[生涯スポーツ学研究科](#)

[生涯スポーツ学研究科](#)

学部・大学院

生涯スポーツ学部

学部長挨拶

スポーツ教育学科

・教員紹介

健康福祉学科

・教員紹介

教育文化学部

学部長挨拶

教育学科

・教員紹介

芸術学科

・教員紹介

心理カウンセリング学科

・教員紹介

短期大学部

ライフデザイン学科

・教員紹介

こども学科

・教員紹介

大学院

人間福祉学研究科 修士課程

・研究科長挨拶

・教員紹介（人間福祉学専攻）

・教員紹介（臨床心理学専攻）

生涯学習学研究科 修士課程

・研究科長挨拶

・教員紹介

生涯スポーツ学研究科 修士課程

・研究科長挨拶

・教員紹介

生涯スポーツ学研究科 博士後期課程

・研究科長挨拶

・教員紹介

生涯スポーツ学研究科

「博士(スポーツ科学)」の学位を取得できる、北海道唯一の博士後期課程。

今日、人々が生涯にわたってスポーツに親しみ、豊かで活力ある社会を実現することが求められています。博士後期課程では、氷雪寒冷圏域を中心とした生涯スポーツの推進に向けて、高度な学問的専門知識、科学的分析能力や学術的研究能力を備えた人材を養成し、スポーツ科学・生涯スポーツ学の推進に貢献することを目的とします。豊かな生涯スポーツの推進に向けて、一緒に研究活動を行いましょう！

生涯スポーツ学専攻 博士後期課程（令和3年4月開設）

“冬季スポーツの競技力向上”および“健康寿命を延ばすための健康づくり”

入学定員3名/標準修業年限 3年

「スポーツ科学」、「生涯スポーツ学」の2つの研究分野によって、北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ社会の発展に向けて、運動・スポーツや健康に関する学術的研究能力と専門的技能を修得し、地域に根ざした生涯スポーツ振興の指導的役割を果たす人材を育成します。



冬季スポーツの競技力向上



健康寿命を延ばすための健康づくり

教育課程の特徴

本研究科の教育課程には2つの研究分野を位置づけています。それぞれ、「スポーツ科学研究分野」と「生涯スポーツ学研究分野」となります。

スポーツ科学研究分野

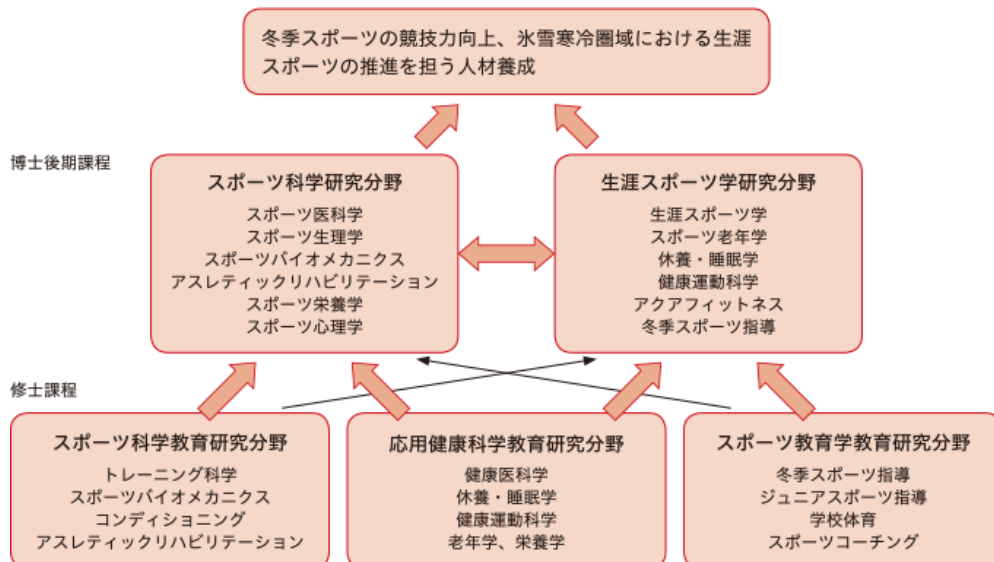
スポーツの科学的研究手法を用いて、スポーツ科学の理論化・高度化を目指します。競技スポーツのパフォーマンス向上のためには、体力向上や運動遂行の最適化が重要であり、自然科学的な分析・評価手法を修得し、エビデンスに基づく運動とトレーニング指導に貢献することを目的とします。地域特性を生かした冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツを医・科学の側面から捉え、スポーツ動作の理論化・高度化に貢献する人材を養成します。

生涯スポーツ学研究分野

人文・社会的手法や健康科学的手法を用いて、生涯スポーツの理論化・高度化を目指します。子どもの体力向上・スポーツ活動の推進や、高齢者の健康寿命を延ばすための健康づくりの実践的な研究を通し、健康で文化的な生活を営み、生涯にわたってスポーツを享受することができる生涯スポーツ社会の実現に貢献することを目的とします。これらの学識を備えた上で、生涯スポーツの振興、発展に貢献できる人材を養成します。



博士後期課程の研究分野と修士課程との関係



3つのポリシー

1 ディプロマ・ポリシー 〈学位授与方針〉

北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における豊かな生涯スポーツ社会の発展に向けて、スポーツ科学・生涯スポーツ学に関する高度な専門的知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を備え、研究成果が国内外で認められた者、当該分野で指導的な役割を担える者に学位を授与する。

2 カリキュラム・ポリシー 〈教育課程編成方針〉

院生の研究能力を専門的に深化できるよう、教育課程を共通科目、専門科目及び研究指導科目の3領域で構成する。
共通科目では、国際的な研究能力を身につけるため、英文読解と作文能力及びプレゼンテーション能力を養う。専門科目はスポーツ科学研究分野と生涯スポーツ学研究分野の2分野で編成される。スポーツ科学研究分野では、運動生理学やバイオメカニクス、トレーニング科学などの研究手法を修得し、冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツの科学的分析・研究能力を養う。生涯スポーツ学研究分野では、応用健康科学、生涯スポーツ学、スポーツ教育学などの研究手法を用いて、地域住民の健康問題の解決や生涯スポーツの振興に貢献できる研究能力を養う。研究指導科目では、複眼的な指導・評価体制で実施し、修業年限内に博士論文を完成できるよう段階的に構成する。

3 アドミッション・ポリシー 〈入学受け入れ方針〉

運動やスポーツ、健康に関する学術研究や科学的知識及び専門的技能を有する人材を求める。スポーツを科学的に分析する能力を有する人材や、生涯スポーツ活動の推進や健康増進のための研究能力を有する人材を受け入れる。また、博士後期課程の研究を遂行するために必要な英語能力を有すること。なお、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教員の高度専門化の観点から、社会人の入学を積極的に受け入れる。

カリキュラムマップ

生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ

領域		科目	担当教員	開講時期	単位数
共通科目		Sports Academic English	C. B. サイモンズ	1年前期	②
専門科目	スポーツ科学研究分野	スポーツ医科学特殊研究	沖田 孝一	1年前期	2
		スポーツ生理学特殊研究	井出 幸二郎	1年前期	2
		スポーツバイオメカニクス特殊研究	山本 敬三	1年前期	2
		アスレティックリハビリテーション特殊研究	吉田 昌弘	1年前期	2
		スポーツ栄養学特殊研究	黒田 裕太	1年前期	2
		スポーツ心理学特殊研究	畠中 智志	1年前期	2
	生涯スポーツ学研究分野	生涯スポーツ学特殊研究	川西 正志	1年前期	2
		スポーツ老年学特殊研究	小坂井 留美	1年前期	2
		休養・睡眠学特殊研究	小田 史郎	1年前期	2
		健康運動科学特殊研究	高田 真吾	1年前期	2
		アクアフィットネス特殊研究	花井 篤子	1年前期	2
		冬季スポーツ指導特殊研究	竹田 唯史	1年前期	2
	研究指導科目 (博士論文指導)	特別研究指導Ⅰ	川西 正志 沖田 孝一 竹田 唯史	1年前後期	④
		特別研究指導Ⅱ	井出 幸二郎 小坂井 留美 小田 史郎	2年前後期	④
		特別研究指導Ⅲ	山本 敬三 高田 真吾	3年前後期	④

※単位数の○印は必修を表す

PDFは[こちら](#)

修了要件

- ① 必修4科目14単位と選択1科目2単位を含む合計16単位以上を修得すること。
- ② 学位授与審査に合格し、博士論文が受理されること。標準修業年限は3年とし、最長6年間の在学を可能とする。

共通科目 (必修)	専門科目 (選択)	研究指導科目 (必修)	修了のための 単位修得要件
2単位	2単位以上	12単位	16単位以上

学位

取得学位

博士(スポーツ科学) Doctor of Philosophy in Sport Sciences

博士論文の提出要件

- ・筆頭著者として査読付き論文の掲載が2編以上決定されていること
- ・国際学術会議での研究発表を1回以上行っていること

学位取得のプロセス

出願	・志望理由書及び研究計画書とともに、TOEICまたはTOEFLのスコアを出願書類に添付して提出する
入学試験	・口述試験
1年次	・大学院便覧、講義要綱に基づいたガイダンス(4月) ・研究分野、研究指導教員及び副指導教員の決定(4月) ・必修科目「Sports Academic English」を履修(前学期) ・研究指導教員による履修指導と研究計画の指導 ・必修科目「特別研究指導Ⅰ」を履修(通年)

	・調査・実験の開始。データ収集・分析の実施。 ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月）
2年次	・必修科目「特別研究指導Ⅱ」を履修（通年） ・学会等で研究発表及び学術誌への論文投稿 ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月）
3年次 （最終年次）	・必修科目「特別研究指導Ⅲ」を履修（通年） ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月） ・論文原稿の提出（12月） 論文原稿の提出要件 ①筆頭著者として査読付き論文の掲載が2編以上決定されていること（※） ②国際学会会議での研究発表を1回以上行っていること ・学位審査：論文審査、口頭試問、発表審査会（1、2月） ・学位授与、博士課程修了（3月） 修了要件 ①必修4科目14単位と選択1科目2単位を含む合計16単位以上を修得 ②博士論文審査に合格し、博士論文が受理されること

進路・就職実績

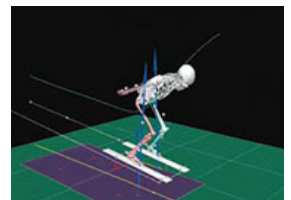
予想される進路

- ・大学・研究所等での研究職員
- ・国立スポーツ科学センター（JISS）や都道府県設置の医科学センターにおける研究員
- ・プロ・実業団スポーツチームにおけるコーチ、動作分析・戦術アナリスト
- ・研究用計測機器の製造・販売する企業の専門的研究技術職
- ・地域スポーツ振興を担う都道府県職員・公的機関
- ・総合型地域スポーツクラブの職員・マネージャー
- ・医療施設・健康づくり施設での健康運動指導者

研究機器・備品

光学式モーションキャプチャシステム

身体に赤外線反射マーカを貼付し、赤外線カメラで撮影することで、マーカの三次元座標を計測することができる装置です。床反力計や表面筋電計と同期計測することで、身体運動における姿勢や動き、力や筋活動を記録することができます。



マーカレスモーションキャプチャシステム

Theia3Dは次世代のマーカレスモーションキャプチャーシステムです。被験者は普段通りの服装でモーションキャプチャーが可能です。カメラ映像から独自AIによって自動で人体の骨格データのみを認識し、最適なモデルが適用されます。後処理が全く不要であるため、短時間でより多くのデータを解析することが可能です。



呼吸代謝測定装置

安静時および運動時に呼気ガス分析を行い、エネルギー消費量を算出することができます。漸増負荷運動時に用いることにより、有酸素性作業能力の有効な指標である換気性閾値や最大酸素摂取量を測定することができます。



大型トレッドミル

ベルトコンベア状の走行運動機器で、速度0～40km/h、傾斜－10～25%の範囲で調整可能。幅1.8m×縦3mと面積が広く車椅子やローラースキーを利用した測定も可能。



多用途筋機能評価運動装置（BIODEX）

全身の各関節の等速性筋力を測定・評価することが可能。疾患のある方やトップアスリートのコンディショニング評価が可能。



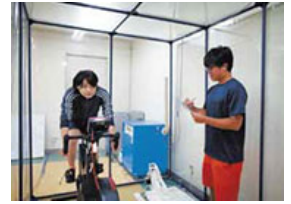
体脂肪測定装置（BODPOD）

空気置換法により、被験者の体積と体重から密度を求め、体脂肪を正確に測定することが可能。



低酸素制御装置・人工気象室

低酸素環境を人工的に作り出し、有酸素能力の向上や高地順応のためのトレーニングが可能です。有酸素及び無酸素性持久力向上のトレーニング方法の開発に利用されます。



超音波診断装置

非侵襲的で筋肉量、質、硬さや血管の機能、筋損傷などの情報を得ることができ、身体機能・組成評価などに利用可能。

脳活動画像診断装置

運動に関わる認知課題遂行時の脳血流変化を記録し、脳神経活動を評価する装置であり、認知症予防のための研究が可能である。

●教員担当一覧

詳しく見る

●募集要項

●パンフレット

●大学院の入試情報

●資料請求

生涯スポーツ学研究科の最新情報

一覧を見る

生涯スポーツ学研究科

MAR
02
2021

「修士論文発表審査会」が行われました。

生涯スポーツ学研究科

DEC
22
2020

大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻 博士...

生涯スポーツ学研究科

NOV
13
2020

「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻 ...

生涯スポーツ学研究科

OCT
28
2020

誕生。「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専...

生涯スポーツ学研究科

OCT
22
2020

第8回修士論文発表審査会が行われました。

生涯スポーツ学研究科

OCT
19
2020

生涯スポーツ学研究科 研究進捗状況報告会（1年）が行...

Ⅲ

生涯スポーツ学研究科の教育目標と特色

生涯スポーツ学研究科長 川 西 正 志 Masashi Kawanishi



文部科学省が平成24年度に策定した「スポーツ基本計画」では、スポーツの果たす役割を踏まえ「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策方針としました。さらに、平成29年度に策定された「第2期スポーツ基本計画」では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を好機として、「スポーツ参画人口を拡大し、スポーツ界が他分野との連携・協同を進め、一億総スポーツ社会を実現する」ための具体的な政策目標が提示されています。こうした国の政策実現に貢献し得る研究の蓄積と有為な人材の養成を目指すことは高等教育機関として重要な社会的ミッションであることは言うまでもありません。

そのため、本学「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻修士課程」では、生涯スポーツを「生涯にわたる各ライフステージにおいて、個人の興味・関心・年齢・体力等に応じて実施するスポーツ活動」と捉え、老若男女を問わず、また、健常者や障がい者を問わず、生涯にわたる各ライフステージで実施される運動・スポーツ活動を対象にした生涯スポーツ学の基礎的かつ実践的な教育研究を行うことを目的としています。具体的な研究対象は、幼年期における幼児体育、青少年期から成人期にかけての学校体育や競技性の強いスポーツ、壮年期から中年期・老年期における健康づくりや生きがいづくりを目標とした運動・スポーツ等を幅広く扱ってきています。研究分野は、スポーツ科学、健康科学、教育学などの分野からのアプローチにより研究を目指しています。

さらに、「大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程」では、生涯スポーツ学を「人の生涯の各ライフステージで継続的に実施され、様々な目的や興味・関心に基づいて行われる運動・スポーツの諸現象に対して、自然科学から人文・社会科学にわたるスポーツ科学の学際的研究アプローチによる基礎的・応用的・実践的研究」と定義し、それらを実施することにより、高度な専門的研究者や高度職業人（指導者）を養成することを設置の趣旨の骨子としています。具体的には、運動・スポーツに関する医学・生理学・バイオメカニクス・リハビリテーション学・栄養学・心理学等を主軸とする「スポーツ科学研究分野」と、生涯スポーツ学・老年学・健康科学・教育学等を主軸とする「生涯スポーツ学研究分野」による研究の専門化と融合を図り、それらの学際的な連携から生涯スポーツ学の高度化と専門性の深化を達成することを重視しています。

本学に設置された大学院生涯スポーツ学研究科（博士後期課程）は、東北以北で初めて博士（スポーツ科学）を取得できる大学院であります。本学大学院修士課程からの進学はもとより、広く社会人で博士取得を目指す方も、本学大学院生涯スポーツ学研究科（博士後期課程）での勉学に挑戦してください。

生涯スポーツ学研究科修士課程の3つのポリシー

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

北海道及び氷雪寒冷圏域において、豊かな生涯スポーツ社会を発展させるために、氷雪寒冷圏域に特有の気候環境的特徴をふまえ、スポーツ動作及びその上達過程を分析し理論化することができ【知識・理解】、氷雪寒冷圏特有の健康問題を正しく理解し、環境を生かした運動を含めた対処法について分析できる【思考・判断】。地域住民の健康維持・増進活動、スポーツ教育活動に貢献でき

【関心・意欲・態度】、高度な専門性を身に付けて社会で指導的な役割を担える者【技能・表現】に対して学位を授与する。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

院生の学修・研究段階に応じて基礎的素養の涵養と専門的深化を実現できるよう、教育課程を「基礎教育領域」と「応用教育研究領域」の2階層構造で編成する。

「基礎教育領域」では、氷雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツや環境・スポーツ適応協関に関する科学的知識基盤を大学院レベルで構築する。「応用教育研究領域」でスポーツ科学、応用健康科学及びスポーツ教育学の専門的素養を大学院レベルに特化・深化させる。

2領域の知識を統合させて、氷雪寒冷圏域の生涯スポーツの課題に対し科学的・専門的にアプローチする能力を修得させる。研究指導では、複眼的な指導・評価体制を構築するために院生1名につき指導・評価教員を各々2名以上配置するシステムを編成し、学位の質を保証する。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

運動やスポーツ、健康に関する学術研究や科学的知識及び専門的技能の修得に高い関心と熱意を持った人材を求める。生涯にわたるスポーツ活動の推進や健康の維持・増進、生涯スポーツの振興、指導者養成に対し、指導的な役割を担える人材を受け入れる。また、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教諭への教職専修免許状取得等の機会を提供する観点から、社会人の入学を積極的に受け入れる。

生涯スポーツ学研究科博士後期課程の3つのポリシー

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における豊かな生涯スポーツ社会の発展に向けて、スポーツ科学・生涯スポーツ学に関する高度な専門的知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を備え、研究成果が国内外で認められた者、当該分野で指導的な役割を担える者に学位を授与する。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

院生の研究能力を専門的に深化できるよう、教育課程を共通科目、専門科目及び研究指導科目の3領域で構成する。

共通科目では、国際的な研究能力を身につけるため、英文読解と作文能力及びプレゼンテーション能力を養う。専門科目はスポーツ科学研究分野と生涯スポーツ学研究分野の2分野で編成される。スポーツ科学研究分野では、運動生理学やバイオメカニクス、トレーニング科学などの研究手法を修得し、冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツの科学的分析・研究能力を養う。生涯スポーツ学研究分野では、応用健康科学、生涯スポーツ学、スポーツ教育学などの研究手法を用いて、地域住民の健康問題の解決や生涯スポーツの振興に貢献できる研究能力を養う。研究指導科目では、複眼的な指導・評価体制で実施し、修業年限内に博士論文を完成できるよう段階的に構成する。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

運動やスポーツ、健康に関する学術研究や科学的知識及び専門的技能を有する人材を求める。スポーツを科学的に分析する能力を有する人材や、生涯スポーツ活動の推進や健康増進のための研究能力を有する人材を受け入れる。また、博士後期課程の研究を遂行するために必要な英語能力を有すること。なお、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教員の高度専門化の観点から、社会人の入学を積極的に受け入れる。

<博士後期課程>

1. 2021年度教育課程表

生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 専門科目

○単位は必修

科 目 名	授業 形態	年次・単位数						教 員 名	備 考	
		1 年次		2 年次		3 年次				
		前	後	前	後	前	後			
共通科目										
Sports Academic English	演習	②						C.B.サイモンズ		
専門科目 スポーツ科学研究分野										
ス ポ ー ツ 医 科 学 特 殊 研 究	講義	2						沖 田 孝 一	集中講義	
ス ポ ー ツ 生 理 学 特 殊 研 究	講義	2						井 出 幸二郎	集中講義	
スポーツバイオメカニクス特殊研究	講義	2						山 本 敬 三	集中講義	
アスレティックリハビリテーション特殊研究	講義	2						吉 田 昌 弘	集中講義	
ス ポ ー ツ 栄 養 学 特 殊 研 究	講義	2						黒 田 裕 太	集中講義	
ス ポ ー ツ 心 理 学 特 殊 研 究	講義	2						畝 中 智 志	集中講義	
専門科目 生涯スポーツ学研究分野										
生 涯 ス ポ ー ツ 学 特 殊 研 究	講義	2						川 西 正 志	集中講義	
ス ポ ー ツ 老 年 学 特 殊 研 究	講義	2						小坂井 留 美	集中講義	
休 養 ・ 睡 眠 学 特 殊 研 究	講義	2						小 田 史 郎	集中講義	
健 康 運 動 科 学 特 殊 研 究	講義	2						高 田 真 吾	集中講義	
アクアフィットネス特殊研究	講義	2						花 井 篤 子	集中講義	
冬 季 ス ポ ー ツ 指 導 特 殊 研 究	講義	2						竹 田 唯 史	集中講義	
研究指導										
特 別 研 究 指 導 I	演習	←④→					川 西 正 志	集中講義		
							沖 田 孝 一			
							竹 田 唯 史			
							井 出 幸二郎			
							小坂井 留 美			
							小 田 史 郎			
							山 本 敬 三			
							高 田 真 吾			
特 別 研 究 指 導 II	演習			←④→			川 西 正 志	集中講義		
							沖 田 孝 一			
							竹 田 唯 史			
							井 出 幸二郎			
							小坂井 留 美			
							小 田 史 郎			
							山 本 敬 三			
							高 田 真 吾			

生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 専門科目

○単位は必修

科 目 名	授業 形態	年次・単位数						教 員 名	備 考
		1 年次		2 年次		3 年次			
		前	後	前	後	前	後		
特 別 研 究 指 導 III	演習					←④→		川 西 正 志	集中講義
								沖 田 孝 一	
								竹 田 唯 史	
								井 出 幸二郎	
								小坂井 留 美	
								小 田 史 郎	
								山 本 敬 三	
								高 田 真 吾	

2. 教育課程編成について

生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程は、生涯スポーツ関連の研究者及び高度専門職業人の養成に重きをおいている。氷雪寒冷圏域を対象とする生涯スポーツ社会の発展のためには、スポーツや健康に関する科学的知識を備え、社会で指導的役割を担える人材の養成が必要である。このため、院生が教育・研究活動を通して専門的知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を身に付けることができるよう教育課程を編成している。

1) 教育課程の基本構成

生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程の教育課程は「共通科目」「専門科目」「研究指導」の3つの科目区分で構成される。

共通科目として、必修科目「Sports Academic English」を配置する。スポーツ科学の研究者として必要な、学術コミュニケーションのための英語能力を養う。

専門科目として2つの研究分野を位置づけている。それぞれ、「スポーツ科学研究分野」と「生涯スポーツ学研究分野」としている。

①スポーツ科学研究分野

スポーツの科学的研究手法を教育研究し、スポーツ科学の理論化と高度化を目指す。特に地域特性を生かした冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツの科学的分析を通し、競技力向上にも貢献する。スポーツを医・科学の側面から捉え、スポーツ動作の理論化・高度化に貢献する人材を養成する。競技スポーツのパフォーマンス向上のためには、体力向上や運動遂行の最適化が重要であり、自然科学的な分析・評価手法を修得し、エビデンスに基づく運動とトレーニング指導ができる知識や技術を修得する。

②生涯スポーツ学研究分野

人文・社会学的手法や健康科学的手法を用いて、生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する。氷雪寒冷圏域では、冬季の積雪寒冷により、スポーツ活動の実施を妨げる要因が存在し、住民には独特の健康問題が存在する。こうした諸問題をふまえ、健康で文化的な生活を営み生涯にわたってスポーツを楽しむための普及・指導方法並びに健康づくりを推進するための方策を研究する。当該分野では、これらの学識を明確に備えた上で、生涯スポーツの振興、発展に貢献できる知識や技術を修得する。

研究指導科目として、「特別研究指導Ⅰ～Ⅲ」を配置し、これを本教育課程の中核に位置づける。特別研究指導は、分野を横断してⅠからⅢへ連続性を持たせ、段階的に学位論文作成に向けて学際的な研究指導を行う。専門分野は多岐に広がりながらも、高度な研究を進めるプロセスは共有し、指導教員及び他分野を含めた副指導教員により一貫した研究指導を進める。

2) 修了要件

博士後期課程の修了要件は、以下の通りである。

- ①所定の修業年限以上在学し、必修4科目14単位と選択1科目2単位を含む合計16単位以上を修得すること。
- ②学位授与審査に合格し、博士論文が受理されること。

3) 博士論文

研究内容や学位の質を担保するため、複数教員による博士論文の指導体制及び研究科教員による中間評価を実施できる体制とする。博士論文指導を行う科目「特別研究指導Ⅰ～Ⅲ」では、1名の院生に対して、研究指導教員1名と他分野を含めた副指導教員1名以上の複数教員が担当し、組織的に研究指導及び論文執筆指導を行う。また、円滑な学位授与や学位水準の質を担保するために、中間評価として、研究進捗報告会を毎年10月に実施し、院生にはプレゼンテーションと質疑応答を課す。研究進捗報告会では、院生は研究科の全担当教員によって、進捗状況が評価され、助言と指導が与えられる。複数教員による指導体制と中間評価によって、院生が学際的な視野を広げながら、計画的な研究活動が遂行できる教育研究環境を提供する。

4) 社会人の履修について

生涯スポーツ学研究科博士後期課程では、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教員への高度専門職化を達成していく視点から、社会人に対する研究教育体制を整えており、大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づいて、一部夜間授業の実施や、休業期間中における集中講義等を実施する。仕事をしながら大学院でのキャリアアップを希望する者が、科目履修及び研究指導を十分受けられる時間割上の工夫をする。実施にあたっては、予定指導教員に相談すること。

3. 学位授与へのプロセス

1) 課程修了のプロセス

生涯スポーツ学研究科博士後期課程では、博士論文の審査基準や審査方法を明記した審査手続きを定める。その審査手続きに基づいて厳格な審査を行い、適切な学位授与を執り行う。課程修了までの指導体制のプロセスは以下の通りである。

1 年次	・大学院便覧、講義要綱に基づいたガイダンス（4月） ・研究分野、研究指導教員及び副指導教員の決定（4月） ・必修科目「Sports Academic English」を履修（前学期） ・研究指導教員による履修指導と研究計画の指導 ・必修科目「特別研究指導Ⅰ」を履修（通年） ・調査・実験の開始。データ収集・分析の実施。 ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月）
2 年次	・必修科目「特別研究指導Ⅱ」を履修（通年） ・学会等で研究発表及び学術誌への論文投稿 ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月）
3 年次 (最終年次)	・必修科目「特別研究指導Ⅲ」を履修（通年） ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月） ・論文原稿の提出（12月） - 論文原稿の提出要件 ①筆頭著者として査読付き論文の掲載が2編以上決定されていること（※） ②国際学会会議での研究発表を1回以上行っていること ・学位審査：論文審査、口頭試問、発表審査会（1、2月） ・学位授与（3月） ・博士課程修了（3月） - 修了要件 ①所定の修業年限以上在学し、必修4科目14単位と選択1科目2単位を含む合計16単位以上を修得 ②博士論文審査に合格し、博士論文が受理されること

※ 査読付きの学術論文については、掲載決定済みの論文も可とする（要掲載決定証明書）。2編の論文は筆頭著者とし、うち1編は日本スポーツ体育健康科学学術連合または日本学術会議に登録された関連する学会が発行する審査規定が明記された学術誌に掲載された論文とする。国際学術誌においては、スポーツ健康体育分野に関連し、査読基準が明確な国際学術団体が発行する論文であること。いわゆる「Predatory Journal」(捕食ジャーナル)を除く。

2) 博士論文審査体制

①基本方針

北翔大学大学院学則に基づき、所定の課程を修了し博士論文審査に合格した者に学位を授与する。学則に則って博士論文の執筆要領や審査基準、審査方法を明記した「博士論文作成要領」を作成し、それに基づいて指導する。博士論文審査基準や審査方法については、院生に明示する。

②審査体制

研究科委員会の中に博士論文ごとの審査委員会を置く。論文審査は予備審査と本審査の2回に分けて行われる。予備審査では、博士後期課程の専任教員で構成される審査員（主査1名と副査2名以上）によって論文審査と口頭試問を行う。予備審査では、提出された論文原稿が審査基準を満たしているか確認をし、必要な場合は、院生に原稿の修正を指示することができる。予備審査に合格した院生を対象に本審査を行う。本審査では、発表審査会が開催され、院生は博士論文の内容をプレゼンテーションし、質疑に応答する。博士後期課程の専任教員全員で審査し、可否についての判定を行う。その後、博士論文等審査結果報告書（博士論文の要旨、予備審査と本審査の審査結果とその要旨）をもって研究科委員会に報告される。研究科委員会では、報告書をもとに博士論文の可否判定を行う。研究科の判定結果は、研究科長から学長に伝達され、博士の学位授与が決定される。以上のプロセスにより、厳正な審査と透明性の高い評価を行う。

③審査委員会の構成

院生が博士論文原稿を提出した後に、研究科委員会の決定に基づき審査委員会を組織し、博士論文の審査を行う。審査委員会の体制は、以下の通りとする。

- ・主査1名、副査2名以上で構成する。
- ・主査は博士後期課程の研究指導教員とする。
- ・副査は博士後期課程の専任教員（合教員以上）とし、必要に応じて、1名は研究科委員会での承認を得て、審査対象論文に関わる専門分野の知見を有する外部の研究者に委嘱することができる。

④審査対象論文原稿の受理

予備審査における審査対象論文原稿の受理条件は、以下の通りとする。

- ・査読付きの学術論文2編以上を基に作成された学位申請の論文原稿であること。
- ・査読付きの学術論文については、掲載決定済みの論文も可とする（要掲載決定証明書）。2編の論文については、院生自身が筆頭著者であり、うち1編は日本学術会議に登録された学会が発行する審査規定が明記された学術誌に掲載された論文、または、国外において第三者審査委員が明記されている学会誌・学術雑誌に掲載された論文であること。
- ・研究テーマに関連する国際的な学術大会での研究成果の発表（口頭、ポスターともに可）を1回以上行っていること。ただし、部会等の学会内の特定地域での発表は含まない。

⑤審査基準

生涯スポーツ学研究科はスポーツ科学という複合領域を主たる学問とする研究科であり、論文の評価基準（合格基準）について、字数など形式要件を一律に定めることは困難である。そのため、審査体制、審査結果の学内外への情報公開などにより博士論文の質を担保する。また、学位授与と博士論文の水準を明確にするために、以下のガイドラインを定める。

- ・研究テーマに明確な新規性及び独創性（オリジナリティ）が認められるか。
- ・研究テーマの学術的意義が認められるか。
- ・博士論文が体系的に構成されているか。
- ・研究目的に適した研究方法であるか。
- ・先行研究の取り扱いが適切であるか。
- ・論旨が明確であり、一貫性があるか。
- ・学術研究における高い倫理性等を有しているか。
- ・研究科のディプロマ・ポリシーに沿い、博士号取得に相応しい人格を有しているか。

⑥単位取得後退学者の学位論文審査について

本大学院博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け退学（単位取得後退学）した者が博士論文を提出するときは、退学後1年以内に提出する場合は、学位論文審査料は全額免除、1年を超えて提出する場合は、半額免除となる。

⑦博士論文の公表について

本大学院が博士の学位を授与したときは、3か月以内にその博士論文の要旨と論文審査の結果の要旨をインターネットにより公表することとなっている。

また、博士の学位を授与された者は、1年以内に博士論文の全文をインターネットで公表しなければならない。なお、やむを得ない場合は論文の要約をもって代えることができるが、本大学院が求めに応じて論文の全文を閲覧に供する。